

< 介護・医療連携推進会議における評価 > ※公表用

【事業所概要】

法人名	社会福祉法人 長岡福祉協会	事業所名	こぶし 24 時間ケアサービスステーション美沢
所在地	(〒 940 - 0856) 新潟県長岡市美沢 4 丁目 2 1 1 番地 6		

【事業所の特徴、特に力を入れている点】

24 時間 365 日営業。住み慣れた地域の中で築き上げた暮らしを支えていく。
情報共有にはタブレットを使用し、多職種連携にも活用している。

【自己評価の実施概要】

事業所自己評価 実施日	西暦 2021 年 9 月 30 日	従業者等自己評価 実施人数	(10) 人	※管理者を含む
----------------	--------------------	------------------	----------	---------

【運営推進会議における評価の実施概要】 新型コロナウイルス感染症の再拡大を受け、推進会議を開催せず書面にて対応とした。

実施予定日	西暦 2022 年 1 月 20 日	メンバー人数 (合計)	(22) 人	※自事業所職員を含む
照会人数 (内訳)	■自事業所職員 (2人) ■市町村職員 (1人) ■地域包括支援センター職員 (1人) ■地域住民の代表者 (1人) ■利用者 (1人) ■利用者の家族 (1人) ■知見を有する者 (2人) ■医療従事者 (6人) ■その他 (7人)			

■ 前回の改善計画の進捗評価

項目	前回の改善計画	実施した具体的な取組	進捗評価	
<p>I. 事業運営の評価 (評価項目 1～10)</p>	<p>コロナ禍の中でも外部研修等もリモート化が進んでいる為積極的な参加を促す。 推進会議、担当者会議にはサービス担当責任者以外の職員にも参加できるように取り組みより良いサービス提供へ反映させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍のためリモートでの外部研修に参加した。感染状況が落ち着き外部研修の参加もしている。またヘルパー研修を定期的実施し専門的技術向上や知識を得るよう心がけている。 ・介護医療連携推進会議、担当者会議への職員参加はコロナ禍もあり、また業務の関係で実施できず、職員の知識向上と向上心のためにも今後の課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・継続的に定期的な研修の実施と参加をして、専門的な技術向上と、より良いサービス提供に取り組めるよう、広く知識を得てほしい。 ・コロナ禍でリモート研修や介護等人数制限もあるが伝達報告し情報共有に努めてほしい。 ・推進会議や担当者会議への職員参加は知識向上や業務取り組みへのモチベーションアップのためにも必要だと思う。 ・推進会議に職員が参加できると顔の見える関係も作れると思う。 	
<p>II. サービス提供等の評価</p>	<p>1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供 (評価項目 11～21)</p>	<p>医療依存度の高い利用者が在宅生活を継続できるようにより専門性のある関係機関の意見を聞き計画作成に反映していく。観察力・変化及び気づきの観点の資質向上ができる研修等と検討し実施していく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・医療依存度が高い利用者は、予想される状態変化（病状変化）などの知識や留意点を訪問看護へ確認し、日ごろから観察点や気付けるようにしている。早期の気づき、早期対応できるよう訪問看護へ相談している。 ・予測できるリスク（危険、事故）をヒヤリハットに挙げて内容を共有し、未然に防止できる対策を検討し、改善につながることやサービスの見直しにつながることもある。より良いサービスに活かせるようにしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・早期の体調変化の気づきとスムーズな報告ができて助かる。 ・早期発見のため日ごろからの観察力をこれからものばしてほしい。 ・ヒヤリハットについて全職員が周知し自由に対策や改善策の意見を出し合い検討できる体制ができている。 ・どのような事がどのようなリスクにつながるか気付いたことをみなで共有できると感性の向上に繋がると思うため継続できると良い。(KTYなど) ・ヒヤリハットを活用して情報共有や対策

				検討を実施することは大きな事故防止になりとても良い取り組みである。新たな課題が見えてくることもありさらに検討してもらいたい。
2. 多機関・多職種との連携 (評価項目 22～27)	地域のインフォーマルサービス等について調査し、ミーティング等での情報共有し在宅サービスに活かしていく。	<ul style="list-style-type: none"> ・インフォーマルサービスの調査はしていないが、現在よく利用される配食サービス、ふれあい収集、自費ヘルパー利用など、職員間でも周知している。買い物支援について、効率よく身近に利用できるサービスを情報収集していきたい。 ・利用者自身の取り巻く環境から支援協力して下さる知人友人、近隣住民、民生委員、などの方々と連携し在宅生活を支えている。定期随時サービスの特徴や理解をより深く知っていただくことが必要と感じる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者が効率よく利用できるサービスの情報収集を行い、職員間で共有しているのは良い取り組みだと思う。 ・インフォーマルサービスの情報収集手段や方法を具体的に組みむと良い。 ・定期的な情報収集と確認ができると良い。 ・コロナ禍ではあるがコミセンや地域のお茶の間などで説明会などができると良い。事例を通しての説明が理解しやすい。 ・地域活動への参加が思うようにできない状況かと思うが利用者さんが安心して自分らしく生活できるように関係機関や近隣住民等と連携していただきたい。 ・利用者にとって必要なサービス提供ができるよう情報提供は大切。 	
3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画(評価項目 28～32)	定期随時サービスをより広く深く知って頂くように広報誌やパンフレット等を活用していく。	定期的に地域へ「美沢だより」を発行し、また、居宅、包括支援センター、病院CWへパンフレットや事例などを活用して深く広く知っていただくように工夫した。病院のCWの方には退院時の傾向を伺い在宅サービスの選択肢として提案した。定期随時を利用したことがない居宅にも理解を深めてもら	<ul style="list-style-type: none"> ・退院する際に病院 CW から定期随時サービスの紹介をしてもらえると利用者にとって在宅サービスの選択肢が広がると思う。すぐに効果が見える物でないが根気強く活動を続けてほしい。 ・病院からの退院の場合は定期随時を理解している職員が多いと思う。居宅事業所によってはまだ活用が十分でないため、広報 	

			う必要がある。今後も地道に活動していきたい。	<p>の必要性が重要と思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・しっかり広報活動できている。継続してほしい。 ・利用したことがないケアマネもいるため定期的な説明会やパンフレットの配布があると良い。ケアマネと同行説明も理解が深まると思う。
Ⅲ. 結果評価 (評価項目 33～34)	受容傾聴の姿勢で援助を行うことで今後も利用者家族が安心して在宅生活を継続出来るように支援していく。	利用者ご家族へのアンケート調査を実施し、「安心して生活出来ている」とのご意見を頂いた。 ご利用者様ご家族様の想いに寄り添いながら、一緒に考え、お一人お一人の生活に合わせた援助を行うようにしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続きお互いの顔が見える関係を構築していただき、一人一人に寄り添ったケアに努めていただきたい。 ・介護は非常に奥が深く援助するのも大変ですが今後も受容傾聴の姿勢を大切にしてケアを続けてほしい。 ・利用者に寄り添った支援ができている。これからも住み慣れた地域で安心した生活の支援をお願いしたい。 	

※「前回の改善計画」および「実施した具体的な取組」は事業所が記入し、「進捗評価」は自己評価・介護・医療連携推進会議における評価の総括を記載します

■ 今回の「評価結果」および「改善計画」

項目	評価結果	改善計画	
I. 事業運営の評価 (評価項目 1～10)	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍の中ではあるが、ヘルパー全体の定期的な研修を継続でき、外部研修もリモート参加でき、専門的な知識と技術の習得に取り組むことができた。 ・推進会議や担当者会議への職員参加は、コロナ禍でもありできなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・より良いサービス提供につながるよう、理念や業務目標を理解し取り組み、専門的知識と技術習得のため研修を継続する。 ・推進会議や担当者会議への職員参加により、知識向上やサービスの改善や課題を考える機会を作る。 ・災害や感染症によるサービス提供が継続できるよう計画を作り、職員周知とシミュレーションを実施し対応できるようにする。 	
II. サービス提供等の評価	1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供 (評価項目 11～21)	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の予測される状態変化などの知識や留意点を訪問看護へ確認して専門的な観察点や気づきを意識し対応した。 ・ヒヤリハットの小さな気づきや予測できる危険を上げて全職員で課題共有し対策検討ができるようにした。今後も継続できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・特性と予測できる変化の知識を得て、専門的観点や観察力の向上に努めていく。 ・小さな気づきや予測できる危険を日ごろから意識しヒヤリハットにあげて、課題と対策検討しより良いサービス向上につながるようにする。
	2. 多機関・多職種との連携 (評価項目 22～27)	<ul style="list-style-type: none"> ・インフォーマルサービスの調査はできなかったが、現在よく利用されるサービスについて周知できた。 ・利用者自身の取り巻く環境の支援協力（近隣住民や民生委員など）を受け連携して対応した。 ・関係機関との情報共有と連携に努め対応することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・多職種・多機関、利用者自身の取り巻く環境支援とも情報共有し連携して目標達成に向けて対応していく。 ・その人らしい生活が継続できるようより良いサービス提供を目指して、活用できるインフォーマル支援とも連携していく。
	3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画(評価項目 28～32)	<p>「美沢だより」の発行やパンフレットの配布などでサービスを知っていただく活動を行った。在宅サービスの選択肢のひとつとして有効的に提案できていないことが分かった。</p> <p>コロナ禍で地域の集会へ参加できなかった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・定期随時サービスが在宅サービスの選択肢の一つとして定着できて身近に感じられるよう、広報誌やパンフレット等を活用し発信していく。 ・地域の集会にも参加して地域の方にもわかりやすい方法を工夫し情報発信していく。

<p>Ⅲ. 結果評価 (評価項目 33～34)</p>	<p>ご利用者ご家族の想いに寄り添いながら一緒に考えお一人お一人の生活に合わせた援助を行うように努めた。</p>	<p>受容傾聴の姿勢を大切にして、その人を知り、お一人お一人に寄り添ったケアを続けてその人らしい安心した在宅生活が継続出来るよう支援する。</p>
---------------------------------	--	---

※自己評価・介護・医療連携推進会議における評価の総括を記載します